



姥(うば)山会津藩陣跡

**白虎隊、鉄砲の威力**  
 白虎隊は若松城内にあったヤーゲル銃を使用。射程距離約二〜三〇〇メートル。価格は現在の貨幣に直すと約八万円。  
 西軍は、スペンサー銃、射程距離約八〇〇メートル、価格は約一二〇万円。スナイドル銃、射程距離約一二〇〇メートル、価格は約九〇万円。



菰土(こもつち)山会津藩陣跡

# 白虎隊がいた 戸ノ口原の陣地跡

猪苗代湖の北西、会津若松市河東町・湊町の戸ノ口原には、一八六八年八月二十三日（現在の十月八日）白虎隊が西軍と戦った時の陣地跡があります。  
 八月二十二日に白虎隊全員が集合したのは菰土山の陣地。篠田小隊が夜移動したのが姥山の陣地です。

戸ノ口原の戦いを描いた唯一の図  
「白虎隊戦闘図」飯沼家蔵



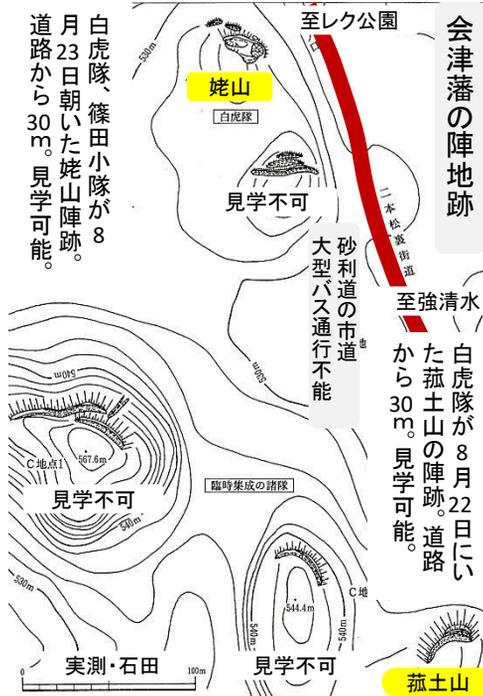
戊辰901

八月二十一日母成峠が破られると会津藩は、二十二日城にいた兵を総動員し、戸ノ口原へは佐川官兵衛、戸ノ口原南の笹山原には西郷頼母、日橋川北の大寺（磐梯町）には萱野権兵衛が指揮する隊を派遣します。  
 二十二日夕方四時頃には、西軍の薩摩藩川村隊が十六橋まで到達し、橋を落とそうとしていた会津藩を攻撃、戸ノ口集落の西まで進攻します。  
 会津藩では、大野原・強清水・戸ノ口原に胸壁（きょうへき）と呼ぶ塹壕（ざんこう）・深さ約八〇センチ）や要害と呼ぶ陣地を一日で構築します。強清水東の丘陵には、会津藩の陣地跡が八カ所、県立会津レクリエーション公園内には西軍の塹壕（深さ約八〇センチ）が一カ所残っています。  
 白虎隊がいた強清水水内内の菰土山（約四〇メートル）と姥山（約一〇メートルと二〇メートル）の陣地跡と、西軍の陣地跡（約五四メートル）は見学が可能です。  
 八月二十三日早朝六時頃、篠田小隊は、姥山陣地跡から東側約一五〇メートルの地点の溝内に移動し西軍と撃ち合いました。  
 戸ノ口原（正確には強清水水内）の市道脇にある白虎隊がいた会津藩陣地跡は、強清水地区の協力により会津古城研究会が草刈をし、清水東にある会津藩戦死者墓は強清水地区で草刈りをしています。



【白虎隊士墓】  
 強清水東にあり、村人が子ども（白虎隊士）と思い建てた線刻の地蔵

【注意】  
 熊、蛇、蚊がいます。ご注意ください。ゴミは持ち帰ります。



白虎隊の山内・原田小隊は、菰土山の陣地を新選組に譲り、南一〇〇メートルにある用水の新四郎堀（市道の南）へ移動。そこから射撃をしますが退却となり、赤井の小坂へ移動、西側の金山に登り、尾根を南に進み若松城を入りました。



【交通機関】R49沿い・バス不便  
 磐越道、磐梯河東ICから約15分  
 会津若松駅から約15km。  
 タクシーで駅から約30分。

【トイレ】★  
 R49沿いレク公園内にあり

【両軍の陣地跡】▲  
 会津藩は強清水の東に8カ所あり  
 西軍はレク園内に1カ所あり

【戦死者墓】↓